

# 橋本俊詔『格差社会』

## 第3章 格差が進行する中で — いま何が起きているのか

1～5: 要点のまとめ

# 1 新しい貧困層の様相

- 貧困率が高いのは
  - － 年齢別では高齢者と若者（OECD調査2004年）  
76歳以上：23.8%、66～75歳：19.5%  
18～25歳：16.6%
  - － 世帯類型別では母子世帯と高齢単身者  
（所得再分配調査2002年）  
母子世帯：53.0%、高齢単身者：43.0%
- 若者の貧困率は深刻—29歳以下の貧困率  
1995年：20.7%、2001年：25.9%

- 母子家庭が貧困となる要因
  - 母親の働く場所がなかなかない  
(仕事と子育ての両立が困難)
  - 低賃金の労働にしか就けない場合が多い
- 高齢単身者が貧困となる要因
  - 女性の方が多い→年金額が少ない
  - 70歳以上の高齢者は無年金の人が多い
  - 核家族化→家族間の経済支援が弱まっている
- 若者が貧困となる要因
  - 若者の失業率が高い
  - 非正規労働者が多い

## 2 低所得労働者が意味するもの

- 低すぎる日本の最低賃金
  - 他の先進諸国と比べて非常に低い
  - 最低賃金以下の労働者が約1割もいる
  - 生活保護の支給額よりも低い最低賃金
- 低所得労働者とはだれか
  - 非正規労働者
  - 特に女性と若者

- なぜ低所得労働者が女性と若者に多いのか
  - 女性の平均賃金が男性よりかなり低い
  - 女性や若者に多いパートタイマーの平均賃金はフルタイマーよりかなり低い
  - 年功序列賃金により若者の賃金が低く抑えられてきた
  - 女性や若者の低賃金を引き上げるような政策がとられなかった
- 失業するよりは非正規労働者がマシ？
  - すべての国民が健康で文化的な最低限の生活ができる権利(憲法)
  - 働く人が生活していけるだけの所得を得るのは当然のこと
  - 失業するよりはマシだから低所得の非正規労働で我慢せよという主張は否定されるべき

# 3 富裕層の変容

- 富裕層
  - 企業のトップ:43.3%、医者:15.4%
- 「儲かる」産業の変遷
  - サービス産業化が進んでいる
- 富裕層の変化
  - サラリーマン経営者から創業経営者へ  
→創業経営者を目指す若者の増加
- 経営者の変容による人材配置の危惧
  - 基幹的な産業に優秀な人材が集まらなくなる

- 医学部進学の過熱化
  - 他の分野に優秀な人材が集まらなくなる
  - 低リスク・高所得の診療科目に人が集まる
  - 大病院の勤務医を敬遠する傾向
  - 日本の医療水準の低下につながる危険
- 企業と医療に共通する問題
  - 組織のなかで地道に働くよりも高額所得を得たいという人が増える傾向
  - 日本の産業・医療の基幹部分が空洞化する危険
- 富裕層の行動
  - 所得・資産を増やすことと節税に熱心
  - [戸口付記] 富への執着、社会的責任の回避

## 4 地域格差の実態

- 数値に見る地域格差
  - 失業率の推移(1975～2000)をみると、地域格差は昔からあり、様相も変わってはいない
  - しかし、失業率全体が相当高まっているので、地域間格差を顕在化した
  - 有効求人倍率でも同様のことが言えるが、地域間格差は失業率よりも大きい
  - 県民一人あたりの所得の推移(1990～2002)をみると、所得がほとんど増えていないことがわかる→経済の沈滞を示している

- 地域間格差は以前からあったし、その様相も大きく変わっているわけではないが、中央と地方、都市と田舎で、かなりの経済格差が存在することがわかる
- なぜ地域格差が深刻化するのか
  - － かつては公共事業が地域間格差を是正する役割を担っていた
  - － 構造改革によって公共事業が削減され、しかもそれに代わる地域支援策は導入されていない
  - － 商業分野における規制緩和により、地方の商店街は衰退
  - － 政府はなんら有効な策を採っていない

# 5 奪われる機会の平等

- 機会の平等

- 職業活動・経済活動を行うための機会 — たとえば、教育・就職・昇進のそれぞれの段階において、みなに平等に機会が与えられているか否かに注目する

- 機会の平等における二つの原則

- 全員参加の原則

- 非差別の原則

この二つの原則が満たされていれば、機会の平等性の高い社会と言えるが、現実はどうか？

- 教育における機会の平等：不平等化が進んでいる
  - － よい教育を受けられるのは、所得の高い親の子弟
    - 難関大学への入学：私立進学校出身者が多数を占める
    - 国立大学の授業料の高騰
  - － 日本の教育費支出がGDPに占める比率は先進国中最低水準
    - それにもかかわらず、政府は教育費を大幅にカットし続けている
- 職業における機会の平等：不平等化が進んでいる
  - － 親の職業が子どもの職業水準を決定する割合が高まっている：たとえば政治家と医者
  - － インセンティブ・デバイド：意欲・希望といった段階で階層が反映されてしまうのは問題
- 女性における機会平等：いまだ不十分
  - － 教育：平等化が進んでいるが、教育費の負担が重くなる一方なので、男子優先という考えが復活するかもしれない
  - － 就職：かつてよりは平等化が進んでいるが、いまだ不十分
  - － 昇進：あからさまな差別は減ってきているが、いまだ不平等「統計的差別」を根拠に差別すべきではない